POWER OF CULTURE
熊野学研究委員会

花の正倉院

～紀伊山地は貴重な植物の宝庫～

紀伊半島の山、また山が続く紀伊山地の彼方にある地の果て「熊野」。それゆえ、人間活動の影響を受けず、自然の状態に近い森林が、ここでは随所に見られます。そしてそこには、多種多様な植物が生育し、他の地域では見られない貴重な植物が特に多く萌え立ち、育っています。

紀伊山地は稀少な草花や樹木の宝庫・収蔵庫、まさに“花の正倉院”といえるでしょう。

紀伊半島南部の植物相

紀伊半島南部は日本の中でも屈指の多雨地域で、年間降水量は3000～4000mmに達します。冬は温暖で乾燥した晴天が続き、平地ではほとんど雪を見ることがありません。「温暖で多雨」ということは、植物の生育に大きな影響をもたらしています。

一方、地形は大部分が標高1000m以下の低山です。しかし年間3000mm以上という豊富な降水量は山や岩を削り、深い谷をつくりあげました。特に和歌山県の熊野川や古座川流域で、このような渓谷が多く見られます。

深い谷と豊富な水は気温を下げるため、真夏でも付近は冷涼な環境が保たれます。そのため、通常、海抜500～600m以上に分布する植物が、半島南部の熊野地方では海抜の低い川沿いで生育しています。

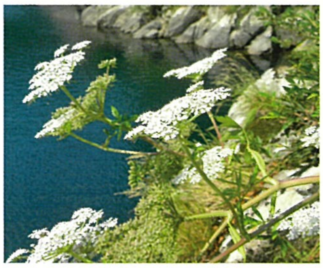
夏季の多雨が特徴的な「太平洋岸気候」に属する紀伊半島南部は、黒潮の影響により冬季温暖な「南海気候区」に区分されます。植物相は多種多様で、固有種・分布の北限とされる種・著しい隔離分布を示す種など、地域性の高さを示す種が多いことなどが大きな特徴です。

固有植物　～紀伊半島南部にのみ生育する植物～

半島南部の気候と複雑な地形が育んだ貴重な植物です。

クルマギク

オオママコナ


カワゼンゴ

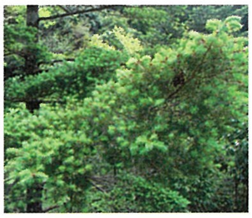
キイジョウロウホトトギス

隔離分布植物

～紀伊半島南部から著しく離れた地域にも分布する植物～

日本列島が氷河期と間氷期を繰り返すなか、植物も間氷期には南方系の植物が北に勢力を拡大し、氷河期には再び南に押し戻されることを繰り返しました。このことが連続的であるはずの植物分布を不連続にし、隔離分布を生じさせました。

シチョウゲ


トガサワラ

キイセンニンソウ

分布が北限の植物

～南からやってきた亜熱帯性の植物～

琉球列島や東南アジアの亜熱帯性の植物が、本州で最初に上陸するのが紀伊半島です。亜熱帯性の植物が、氷河期の寒さに耐えて生き残ることができた気候的な懐の深さが、紀伊半島南部にはあります。

リュウビンタイ

ヘ　ゴ

襲速紀要素の植物

紀伊半島南部から四国・九州南部の地域は、植物地理学で"襲速紀（そはやき）地域"と呼ばれ、植物の種類や構成に共通するものがたくさんあります。この地域の植物の多くが、その近縁種を中国大陸西南部に持つ点で、特殊な地域であるとされます。

チャボホトトギス

トサノミツバツツジ

シコクスミレ

熊野地方にちなんだ名前がついた植物

紀伊半島南部の熊野地方で初めて発見されたり、この地方を中心に分布していたりするため、名前に地名が入っています。

ナチシダ

クマノギク

クマノミズキ

ドロノシモツケ

新たに自生が確認された植物

熊野は今でも首都圏から最も時間を要する地域の一つです。そのため、大がかりな生物調査等が実施されないまま現在に至った珍しい場所であり、最近になって生育が確認される植物も少なくありません。

シモバシラ

ヒメノボタン

熊野学研究委員会は昭和57年に発足し、熊野地域の自然・歴史等について研究を続けています
<問合先>　新宮市文化振興課　TEL 0735-23-3368